

「稲荘農場まちづくりの会」と 「ダンボールコンポストによるごみ減量」の取組み

兵庫県稲美野荘園自治会長 高瀬 健三

1. 活動方針・目的

「ゆうゆうライフへの挑戦」第3篇として、自治会内の高齢化率の上昇（毎年3%）および二人世帯や独居世帯の増加が急激に進む中、地域住民の連帯意識と交流の場作りを目的に共同農場を立ち上げ「健康づくり」と「仲間づくり」を育む活動を開始した。

2. 活動内容

『稲荘農場まちづくりの会』を発足し、3事業に取り組んだ。

(1) 健康づくり事業

・ 集団農作業による野菜作りによる健康づくり・連帯感づくり

(2) エコ事業

・ ダンボールコンポストによるごみ減量運動の展開による住民意識の高揚づくり

(3) 世代間交流事業

・ 小学生の体験学習による三世代交流の地域親睦づくり

3. 他の活動団体の参考となる事例

地域通貨

約50名の稲荘農場まちづくりの会会員が集団で野菜を栽培し、自治会員に安価で販売、また、ダンボールコンポストによる生ごみ堆肥と、300円相当の野菜の交換を行いごみ減量にも貢献した。

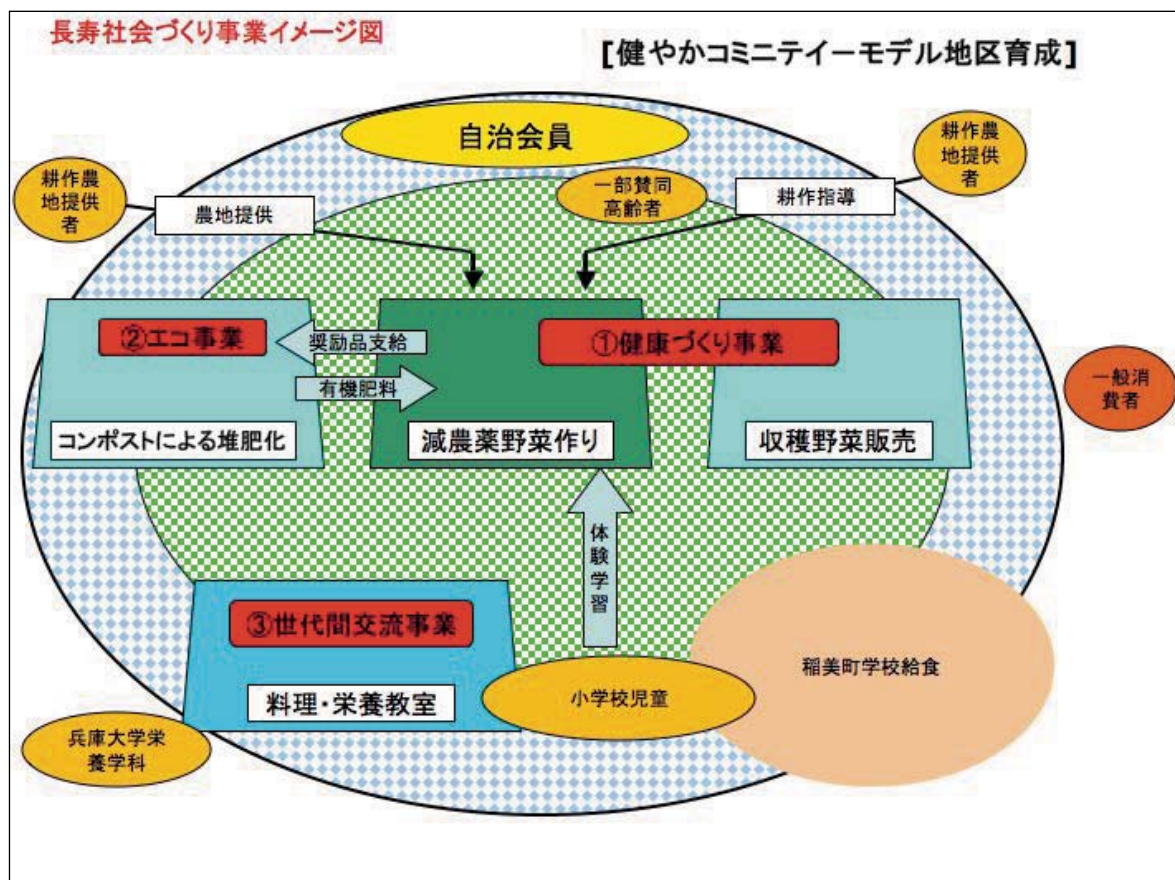
小学校の農場収穫体験学習

三世代交流事業では、近くにある小学校と連携し、4年生約100名が課外授業でだいこんの収穫体験を実施し学校給食食材に提供するとともに、学校で子どもたちと一緒に給食を食べた。

4. 今後の課題等

稲美野荘園自治会は非農家の自治会であるため、栽培農場の確保が課題となっている。借地料や肥料代など資金調達にも苦慮している。

ダンボールコンポストに取り組む会員も100世帯を超え、「ごみ減量を通じての連帯」が生まれつつあり、会員数の増加と共に自治会内でのごみに対する関心が高まりつつあるが、ダンボールコンポストの材料となるピートモス・くんたんの資材調達資金が不足している。



事業内容

- ① 地域農業従事者と連携した野菜作り
- ② 有機農業を目的とした生ゴミ再利用
- ③ 稲荘自治会員に食材の格安提供

運 営

- ① 役員、理事会による合議制(10名)
- ② 集団作業体制
- ③ 均等配布制



マスコミが注目





エコ事業活動

ダンボールコンポスト堆肥の回収

第1回 10月30日 回収46名、実施者 60名、回収率 76.6%

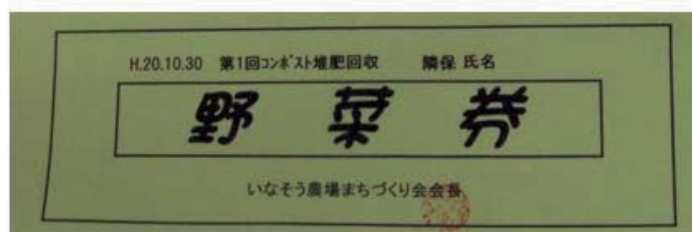
第2回 12月20日 回収52名、実施者 60名、回収率 86.6%

野菜交換状況(朝市)

第1回 11月15日 20/46 交換率 43.4%

第2回 12月25日 23/52 交換率 44.2%

地域通貨の発行



もみ殻薫炭づくり

平成21年2月15日

